

災害時の助け合いの仕組みづくり



【戸笠学区】

■世帯数：3,674 世帯

■人 口：8,778 人

■面 積：1.219k m²

平成 27 年 7 月 1 日現在

1 概要

戸笠学区では、災害時の助け合いの仕組みづくりに取り組んでいる。26 年度に学区連絡協議会と区役所で協定を締結し、避難行動要支援者名簿を受け取った。その名簿を活用して個別支援計画を作成する際に自治会長や組長が中心になって、支援を希望する方々のお宅を 1 軒 1 軒訪問した。

災害時の支援のことはもちろんのこと、日ごろ困っていることなども把握し、向こう三軒両隣の意識が芽生え、地域のつながりが深まった。今後は、個別支援計画を訓練において活用するとともに、支援を希望する方にも訓練にご参加いただけるよう働きかける。

2 きっかけ、背景

- ・ 高齢者が多い学区なので“何かの役に立つのでは”（自治会活動・民生委員活動）と考え、軽い気持ちで取り組もうと思った
 <高齢化率 約 30%、区内 2 番目の高さ>



3 実施の体制

(1) 方針の検討

学区連絡協議会、学区防災委員会で方針を決定

(2) 個別支援計画の作成者

自治会長・組長 約300人



(3) 協力者

民生委員、支援を希望する方の近所の方々

5 成果と課題

(1) 成果

- ・自治会長、組長、民生委員など多くの協力を得ることができた
- ・学区全体の防災意識が高まった
- ・地域のつながりが深まった

(2) 苦労した点

- ・要支援者宅への説明・訪問の難しさ
- ・制度の周知（支援者（組長）の温度差）

(3) 今後の課題

- ・予想以上に要支援者がいる
- ・支援者の主体となる組長自身が高齢化してきている
- ・学区の防災体制の充実（自主防災組織と避難所組織）

(4) メッセージ・アドバイス

- ・役員の取り組み方針の共有化と自治会長への分かりやすい資料作りが必要（総論で分かっても具体的となると難問）
- ・始めたら途中で中止といかないなので使命感に燃えて取り組んでください

4 実施のスケジュール

H26年6月 緑区区政協力委員協議会において区役所から説明を受ける

7～8月 学区内で取組の検討

9月 協定締結

10月 対象者へ案内送付、学区内で回覧

H27年2月 区役所から学区に名簿提供

3月 学区区政委員会で自治会単位の取組の要請

4～6月 各自治会で個別支援計画作成

10月 自主防災訓練の実施